

(31)

氏名(生年月日)	オオ 大	タニ 谷	トシ 敏	カ 嘉
本 籍				
学位の種類	医学博士			
学位授与の番号	乙第783号			
学位授与の日付	昭和61年12月12日			
学位授与の要件	学位規則第5条第2項該当(博士の学位論文提出者)			
学位論文題目	25歳未満発症糖尿病患者における網膜症の進展とHbA1cとの関係			
論文審査委員	(主査)教授 平田 幸正 (副査)教授 鎮目 和夫, 教授 阿部 和枝			

論 文 内 容 の 要 旨

目的

若年発症糖尿病患者の網膜症の進展について、インスリン依存型糖尿病患者(以下、IDDMと略す)とインスリン非依存型糖尿病患者(以下、NIDDMと略す)とを比較した。

対象および方法

対象は、25歳未満で発症し東京女子医科大学糖尿病センターを1980年～1984年の5年間に初めて受診した368名のうち、IDDM、NIDDMの病型が明らかであり、1984年1月から同年12月の間に眼底検査を施行しえた糖尿病患者215名(調査時年齢10～39歳)である。

網膜症の診断は眼科専門医による眼底検査によった。網膜症の程度は、網膜症なし、単純網膜症、増殖網膜症および透視不能の4段階に分類した。調査時年齢は10～39歳を5年ごとの6段階、糖尿病の罹病期間は0～29年を5年ごとの6段階に分けた。

結果

対象215名の病型別患者数は、IDDM 123名(調査時年齢 22.8 ± 5.7 歳、罹病期間 10.5 ± 7.4 年)、NIDDM 92名(調査時年齢 25.0 ± 6.5 歳、罹病期間 6.6 ± 5.9 年、 $\text{mean} \pm \text{SD}$)であった。

網膜症は、IDDMでは123名中64名(52.0%)、NIDDMでは92名中32名(34.8%)にみられ、NIDDMよりIDDMの方が網膜症を多く認めた($p < 0.025$)。単純網膜症は、IDDMでは123名中53名(43.1%)、NIDDMでは92名中20名(21.7%)、増殖網膜症は、IDDMでは11名(8.9%)、NIDDMでは12名(13.0%)に認めた。

調査時年齢層別にみると、IDDMでは15～19歳の年齢層から網膜症を認め(20名中4名[20.0%])、20～24歳の年齢層では47名中28名(59.6%)と飛躍的に増加した($p < 0.01$)。NIDDMでは20～24歳の年齢層から網膜症を認め(25名中5名[20.0%])、25～29歳(20名中5名[25.0%])、30～34歳(18名中14名[77.8%])であり、30歳を境として網膜症は著明に増加した($p < 0.005$)。

罹病期間別では、両型とも罹病期間が長くなるとともに急激に網膜症が増加した(IDDM: 0～4年5.0%、5～9年50.0%、10～14年79.2%、NIDDM: 0～4年4.3%、5～9年41.7%、10～14年91.7%)。増殖網膜症を認めた最初の罹病期間は、IDDMでは15～19年(28名中7名[25.0%])、NIDDMでは5～9年(24名中3名[12.5%])で、IDDMよりNIDDMの方が早期の罹病期間で増殖網膜症を認めた。

考察

網膜症の進展と罹病期間との関係について、ミネソタで発症した173名のIDDMのうち、網膜症の頻度は糖尿病の罹病期間0～4年1%、5～9年25%、10～16年67%であったと報告されている。アイスランドで発症したIDDM 149名では、網膜症を罹病期間5～9年18.8%、10～19年54.0%、20年以降53.3%に認めたと報告されている。わが国におけるIDDMの網膜症の頻度は、上記欧米の二報告と比較してより早期により高頻度に認められた。また、若年発症NIDDMでは欧米においては増殖網膜症を認めるものが少ないといわれているが、わが国のNIDDMは欧米より増殖網膜症を

多く認めた。

結語

私の経験したわが国での25歳未満発症糖尿病患者にお

ける網膜症の進展は、IDDMでは欧米に比し早く、また、NIDDMではIDDMと比較しより早期に増殖網膜症を認めた。

論文審査の要旨

本研究は、日本における25歳未満発症の多数の糖尿病患者をインスリン依存型糖尿病とインスリン非依存型糖尿病に分け、病型別に糖尿病性網膜症の進行状態をみたものであり、この両型ともに欧米に比べ網膜症進行のスピードが早いこと、とくに欧米では若年インスリン非依存型糖尿病では極めてまれとされる網膜症の進展が日本人においては著しいことを証明したもので、学問的価値の大きいものである。

主論文公表誌

25歳未満発症糖尿病患者における細小血管症の進展と
HbA_{1c}との関係

東京女子医科大学雑誌 第56巻 第7号
573～582頁（昭和61年7月25日発行）

副論文公表誌

- 1) 25歳未満で糖尿病を発症し20年以上経過した糖尿病患者47名の検討
糖尿病 28 (2) 163～168 (1985)
- 2) 25歳未満発症インスリン依存型ならびに非依存型糖尿病患者108名の比較検討
東女医大誌 54 (8) 678～685 (1984)

- 3) Suppressor T細胞の表現型を有し、Helper T細胞機能を有すると思われるT細胞性リンパ腫の1例

臨床血液 23 (12) 1930～1933 (1982)

- 4) A case report of T-cell lymphoma with suppressor phenotype and helper function for immunoglobulin synthesis (免疫グロブリン産生に関して、suppressor T細胞の表現型を有し、helper T細胞の機能を有すると思われるT細胞性リンパ腫の1例)

Cancer 54 (9) 2029～2031 (1984)